



HP Universal CMDB

ソフトウェア・バージョン : 10.20

リリース・ノート

ドキュメント・リリース日 : 2015 年 1 月
ソフトウェア・リリース日 : 2015 年 1 月

ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler である「zlib」汎用圧縮ライブラリのインターフェースが含まれています。

文書の更新

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ・ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ・ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ・ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次の URL にアクセスしてください：<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、次の URL にアクセスしてください。<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

または、HP ソフトウェア・サポート・ページの上にある【登録】リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

次の HP ソフトウェアのサポート・オンラインの Web サイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HP ソフトウェア・オンライン・ソフトウェア・サポートでは、お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトの次の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルに関する詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions Now は、HPSW のソリューションと統合に関するポータル Web サイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たす HP 製品ソリューションを検索したり、HP 製品間の統合に関する詳細なリストや ITIL プロセスのリストを閲覧することができます。この Web サイトの URL は **<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>** です

目次

HP Universal CMDB, HP Universal Discovery および HP Configuration Manager リリース・ノート	5
HP Universal CMDB, UD, CM 10.20 のファイル/コンポーネント	5
システム要件	6
HP UCMDB および HP Configuration Manager のデプロイメント・ガイド	6
ディスカバリ・ナレッジ・コンテンツ	7
注意事項および制限事項	8
UCMDB のインストール	8
UCMDB のアップグレード	8
Configuration Manager のアップグレード	10
HP UCMDB	11
自動サービス・モデリング	16
Configuration Manager	18
モデリング	21
Universal Discovery	22
統合	27
連携	31
LW-SSO	32
LDAP	33
多言語サポート	33
機能強化要求	35
修正された UCMDB, UD, CM 10.20 の欠陥	37
ドキュメントに関するフィードバックの送信	50

HP Universal CMDB, HP Universal Discovery および HP Configuration Manager リリース・ノート

このドキュメントは、HP 構成管理システムのバージョン 10.20、すなわち HP Universal CMDB 10.20 (UCMDB)、HP UCMDB Universal Discovery 10.20 (UD)、および HP Configuration Manager 10.20 (CM) についての情報を提供するものです。

HP Universal CMDB, UD, CM 10.20 のファイル/コンポーネント

HP UCMDB, UD, CM 10.20 には、次のファイル/コンポーネントが含まれています。

	含まれるファイル
Windows	• HPUCMDB_Server_10.20.480.exe : Windows プラットフォーム用のバージョン 10.20 HP UCMDB Server のインストールを開始します。 • HPUCMDB_DataFlowProbe_10.20.480.exe : Windows プラットフォーム用のバージョン 10.20 HP Universal Discovery Data Flow Probe のインストールを開始します。 このインストーラは、スタンドアロン・インストールにおいて Universal Discovery インベントリ・ツールをインストールするためにも使用できます。 • HPCM_10.20.82.exe : Windows プラットフォーム用のバージョン 10.20 HP UCMDB Configuration Manager のインストールを開始します。
Linux	• HPUCMDB_Server_10.20.480.bin : Linux プラットフォーム用のバージョン 10.20 HP UCMDB Server のインストールを開始します。 • HPUCMDB_DataFlowProbe_10.20.480.bin : Linux プラットフォーム用のバージョン 10.20 HP Universal Discovery Data Flow Probe のインストールを開始します（統合用のみ）。 • HPCM_10.20.82.bin : Linux プラットフォーム用のバージョン 10.20 HP UCMDB Configuration Manager のインストールを開始します。
共通	• Deployment_Guide : 起動ファイルを含む対話式のデプロイメント・ガイドのファイルが含まれます。 • Launch_Deployment_Guide.htm

	含まれるファイル
	• 強化ガイド (HardeningGuide.pdf) • Upgrader Reference (Upgraders.pdf) • データベース・ガイド (DatabaseGuide.pdf) • サポート・マトリクス (Support_Matrix.pdf) • はじめにお読みください (Read_Me.txt) • 新機能 (Whats_New.html)

注: UCMDB バージョン 10.20には、HP UCMDB Universal Discovery Content Pack 15.00および UCMDB Browser 4.00 が備わっています。

システム要件

システム要件のリストについては、HP Universal CMDB インストール・メディアのルート・フォルダにある『HP Universal CMDB サポート・マトリクス』ドキュメントを参照してください。

注: 埋め込み PostgreSQL は、UCMDB のエンタープライズ・デプロイメントではサポートされていません。

注: バージョン 10.2.0.5 より前の Oracle を使用している場合は、Oracle バグ番号 5866410 を修正する Oracle パッチを適用する必要があります。詳細については、Oracle の Web サイトにアクセスして、このバグ番号に関する情報を検索してください。

HP UCMDB および HP Configuration Manager のデプロイメント・ガイド

HP UCMDB インストーラは、物理メディアまたは電子メディアで入手可能です。

1. デプロイメントで参照する手順用に、インタラクティブ形式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』（**Deployment_Guide\Launch_Deployment_Guide.htm**）を起動します。

注: Google Chrome アップデートのバージョン 30.0.1599.69 において、インタラクティブ形式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を開くことができない問題が発生しています。このガイドを開く場合は、Google Chrome 以外のブラウザ（Internet Explorer, Mozilla Firefox など）を使用してください。

2. インタラクティブ形式のドキュメントで、該当する製品セットを選択して、デプロイメント・オプションを選択します。

3. カスタマイズされたデプロイメント・ガイドを表示するには [ビュー] ボタンを、印刷するには [印刷] ボタンをクリックします。

注: コンピュータにインストールされた PDF 印刷ドライバがある場合は、[印刷] をクリックして、選択内容に応じてカスタマイズされた PDF ドキュメントを作成します。PDF 印刷ドライバはいくつかのオープン・ソースおよびサード・パーティ・プロバイダから提供されています。

ディスカバリ・ナレッジ・コンテンツ

ディスカバリ・ルール・コンテンツ・ファイルおよびソフトウェア・アプリケーション・インデックス (SAI) コンテンツ・ファイルを含むディスカバリ・ナレッジ・コンテンツの更新は、Hewlett-Packard から定期的にリリースされます。HP ディスカバリおよび依存関係マッピング・イベントリ・コンテンツの更新に含まれていたすべてのコンテンツ更新は、Universal Discovery にも含まれています。

ディスカバリ・ルールには、お使いの環境のハードウェア・デバイスを識別する情報が含まれています。ディスカバリ・ルールにより、デバイスのオペレーティング・システム、アプリケーション、デバイス・ファミリ、モデルが決定されます。そして、ディスカバリ・ルール・エンジンはお使いのデバイス・モデルにデバイス・タイプを割り当てます。

SAI ファイルには、ディスカバリ・ノード上のアプリケーションを識別する情報が格納されています。Universal Discovery では、ファイルベースの認識機能、バージョン・データ、インストール済みパッケージ・ルールベースの認識機能といった多くのインストール済みソフトウェア・アプリケーション認識技術が採用されています。この認識に必要なデータは、アプリケーション・ライブラリ・ファイル (SAI) に格納されています。

注: HP Universal CMDB バージョン 10.20 以降にリリースされた最新の SAI ファイルを UCMDDB にインポートするには、『DDMI to Universal Discovery Migration Walkthrough Guide』の「How to Import DDMI SAls to UCMDDB」の項を参照してください。

最近リリースされたコンテンツで、このバージョンの Universal Discovery に現在含まれているものは、HP ライブ・ネットワーク内の Universal Discovery コミュニティ (<https://hpln.hp.com/group/universal-discovery/>) の Web サイトで確認できます。

注: このサイトにログインするには HP Passport のユーザ名とパスワードが必要です。

注意事項および制限事項

• UCMDB のインストール	8
• UCMDB のアップグレード	8
• Configuration Manager のアップグレード	10
• HP UCMDB	11
• 自動サービス・モデリング	16
• Configuration Manager	18
• モデリング	21
• Universal Discovery	22
• 統合	27
• 連携	31
• LW-SSO	32
• LDAP	33
• 多言語サポート	33

UCMDB のインストール

- Google Chrome アップデートのバージョン 30.0.1599.69 において、インタラクティブ形式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を開くことができない問題が発生しています。このガイドを開く場合は、Google Chrome 以外のブラウザ（Internet Explorer、Mozilla Firefox など）を使用してください。
- インストール時にはユーザのデフォルト設定パスワードを変更できません（システム管理者や統合ユーザなど）。JMX コンソールを使用してパスワードを変更してください。
- 埋め込み PostgreSQL を使用して Red Hat Enterprise Linux バージョン 6.5 に UCMDB をインストールすると、「rpm で PostgreSQL インストールが検出された」というエラーが表示されます。

回避策：この警告を無視して[次へ]をクリックします。

UCMDB のアップグレード

- 検索時に **Tags** ビジネス・サービス属性のインスタンスを見つけるためには、JMX コンソールでインデクサの設定を変更する必要があります。**UCMDB:Service=Topology Search Services.Method:editIndexerConfiguration** の **business_element** クラスで **Tags** 属性を小文字にすることで、この属性が検索できるようになります。
- UCMDB とコンテンツ・パックの両方を以前のバージョンから最新バージョンにアップグレードする（たとえば、UCMDB を 10.11 から 10.20 へ、コンテンツ・パックを CP14 から CP15 へアップグレードする）場合、コンテンツ・パックにカスタマイズしたファイルが含まれていると、アップ

グレード時にコンテンツ・パックの一部のクラス・モデル・ファイルのデプロイメントが失敗することがあります。

回避策: アップグレード後に Content Pack 15 を手動で再インストールします。

- UCMDB バージョン 9.05 でカスタム・クラス・モデルを作成していた場合、UCMDB をバージョン 9.05 から 10.20 にアップグレードした後に、そのカスタム・クラス・モデルが使用できなくなることがあります。たとえば、管理ゾーンの新しいアクティビティを作成すると、[資格情報の定義] タブ・ページの [プロトコル] 表示枠が空の状態が表示されることがあります。

回避策: JMX メソッド `updateClassModel` を呼び出して、カスタム・クラス・モデルをアップグレードします。手順は次のとおりです。

- a. Web ブラウザを起動して次のアドレスを入力します。

`http://<マシン名または IP アドレス>.<ドメイン名>:1977/`

<マシン名または IP アドレス> には、Data Flow Probe がインストールされているマシンを指定します。ユーザ名とパスワードでログインする必要がある場合もあります。

- b. [検索] フィールドで、**`updateClassModel`** を入力して、[Enter] を押します。
- c. `updateClassModel` メソッドを見つけて、[値] フィールドに「1」と入力し、[Invoke] をクリックします。

updateClassModel

Updates the class model with the classes, typedefs and valid links in the xml files

Name	Type	Value	Description
customerID	java.lang.Integer	1	Customer ID

- UCMDB をバージョン 10.20 にアップグレードした後に資格情報に関する問題が発生した場合は、次の手順を実行します。
 - **key.bin ファイル:** 新しいプローブが UCMDB サーバと同じ **key.bin** ファイルを使用していることを確認します。
 - **時間:** プローブの時間が UCMDB サーバ時間と同じであることを確認します。プローブの時間が違っていると、資格情報エラーが発生することがあります。
 - **アップグレード後の環境で資格情報エラーが発生する。**

回避策: 新しいプローブをインストールし、問題のあるファイルを上書きするため特定のファイルをコピーします。手順は次のとおりです。

- i. UCMDB サーバと同じマシンにクリーンなプローブをインストールして、UCMDB サーバに接続します。この新しいプローブが資格情報を正常に取得できることを確認します。
- ii. 新しいプローブに移動して、**C:\hp\UCMDB\DataFlowProbe\conf\security** ディレクトリから **Cmcache.bin** ファイルと **secured_storage.bin** ファイルをコピーします。
- iii. 資格情報エラーが発生するプローブに移動して、前述の 2 つのファイルをコピーしたファ

イルで上書きします。

iv. プロンプトを再起動し、資格情報を再度取得してみます。

- ・ **アップグレード後の環境から資格情報をエクスポートして新しいインストール環境にインポートすると、JMX 操作が失敗する。** エクスポートした資格情報の xml ファイルにカスタマイズしたクラス・モデルが含まれている場合、またはカスタマイズしたクラス・モデルがアップグレード後の UCMDb サーバで定義されていない場合、資格情報のインポートで問題が発生することがあります。

回避策：

- エクスポートした資格情報の xml ファイルからカスタマイズしたプロトコルを削除します。
- カスタマイズしたクラス・モデルを、CIT を使用して手動で UCMDb サーバに追加します。

注：エクスポート CIT またはインポート CIT が正しく動作することを確認します。正しく動作しない場合、この回避策が機能しない可能性があります。

注：カスタマイズしたクラス・モデルをアップグレードするには、JMX メソッド `updateClassModel` を呼び出します。詳細については、[JMX メソッド `updateClassModel` を起動する手順](#)を参照してください。

- ・ UCMDb をバージョン 9.0x からアップグレードした後、“ユーザ作成” 権限を持つユーザの権限が失われます。
- ・ UCMDb 10.20 がサポートする最小のコンテンツ・パック・バージョンは Content Pack 15.00 であり、これは UCMDb 10.20 とともに自動でインストールされます（以前にインストールされていない場合）。
- ・ 旧バージョンの UCMDb の CI タイプを変更した後でバージョン 10.20 にアップグレードする際は、当該タイプまたは IT ユニバース・マネージャにおけるその子孫からの CI のショートカット・メニューから一部新しい機能が欠落する可能性があります。この場合、当該 CI タイプのアタッチ・メニューを編集し欠落している機能を追加してください。
- ・ 旧バージョンから 10.20 へのアップグレード時には、削除されたユーザのユーザ・プリファレンスが削除されません。ログに警告が表示され、アップグレードが正常に完了します。
- ・ アップグレード中、ディスカバリ・モジュール CIT のパス属性で **UNIQUE_INDEX** 違反例外が発生する可能性があります。旧バージョンのカラムには重複が生じることがありましたが、新しいバージョンのカラムには **UNIQUE_INDEX** 修飾子があります。このメッセージは、重複があったこと、および修飾子が追加されていないことを意味します。

Configuration Manager のアップグレード

- ・ バージョン 10.20 へのアップグレード後は、CM Policy Adapter は自動的にアンデプロイされません。このアダプタをアンデプロイするには、UCMDb のパッケージ・マネージャを使用します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』を参照してください。

- サーバ自動化の外部ポリシーは、バージョン 10.20 へのアップグレード後はアクティブ化されません。これらのポリシーをアクティブ化するには、JMX コンソールで **PolicyAnalysis** メソッドを実行して、**[refreshExternalPolicies]** をクリックします。
- アップグレードすると、カスタマイズしたトポロジ・レイアウトの定義（レイヤのナンバリングを含む）はすべてリセットされます。

HP UC MDB

- HTTPS 接続では SSLv3 プロトコルはサポートされなくなりました。
- Axis2 管理コンソールにはアクセスできなくなりました。
- パターン・ベース・モデルで使用する TQL クエリが更新されるときに、依存関係が計算されません。これは、新しいパッケージを作成する、または既存のパッケージを開くときに、パッケージ・マネージャのリソース選択機能にアクセスできないことが原因です。次のエラー・メッセージがログに表示されます。

"Caused by: java.lang.IllegalStateException: EnrichmentBusinessViewDefinition *ModelName* is not synchronized with its pattern. Element number 12 does not exist in pattern graph."

エラー・メッセージで「*ModelName*」および「12」は、状況に応じて別の値になることもあります。

この問題を回避するには、次の 2 つの方法のうちいずれか 1 つを実行します。

- モデルを削除してから再作成します。
 - i. UC MDB JMX コンソールおよび URM Services にログインします。
 - ii. メソッド **listResources** を、タイプ **Topology_ENRICHMENT_BUSINESS_VIEW** のリソースに対して実行します。
 - iii. エラー・メッセージで示されている **EnrichmentBusinessView** を見つけて削除します。続いて、モデルを削除します。
 - iv. 同じ TQL を使用してモデリング・スタジオからモデルを再作成します。
- 問題のあるモデルの未同期のリソースを手動で編集します。
 - i. UC MDB JMX コンソールおよび URM Services にログインします。
 - ii. メソッド **listResources** を、タイプ **Topology_ENRICHMENT_BUSINESS_VIEW** および **Topology_TQL** のリソースに対して実行します。
 - iii. 問題のあるモデルの **Topology_ENRICHMENT_BUSINESS_VIEW** および **Topology_TQL** の xml 定義を取得します。
 - iv. **EnrichmentBusinessView** を開いて、エラー・メッセージで示されている ID を見つけます。

```
<CmdbProperty>
  <Key>nodeNumberEnd2</Key>
```

```
<Type>integer</Type>
<Value>12</Value>
</CmdbProperty>
```

v. 次のいずれかを実行します。

- EnrichmentBusinessView 内の欠落している ID を **Topology_TQL** 定義の既存の ID に変更し、リソースを保存します。
- **Topology_TQL** 定義内の欠落している ID を既存の ID で置き換えて、リソースを保存します。

次に例を示します。

```
<ttl:node class="node" name="Node" id="19">
  <ttl:where>
    <ttl:data-stores>
      <ttl:data-store>UCMDB</ttl:data-store>
    </ttl:data-stores>
  </ttl:where>
</ttl:node>
```

TQL に ID 12 がない場合は、次の方法で変更できます。

```
<ttl:node class="node" name="Node" id="12">
```

注 :パターン・ベース・モデルは、TQL からではなくモデルから作成または編集する必要があります。モデルとビューの両方で同じ TQL を使用することはできません。

- [ユーザ管理] :UCMDB サーバの多数のユーザを管理している場合に、検索しやすくなるようユーザをアルファベット順に並べるための[昇順]と[降順]のアイコンが一部のテーブルの見出しに表示されないことがあります。ただし、ソート機能は正常に動作します。
- Telnet プロトコルの資格情報を UCMDB Browser で入力および保存することはお勧めしません。UCMDB Browser から入力した Telnet プロトコルの資格情報は正しく保存されない場合があります、その結果、追加の資格情報を入力できなくなる可能性があるためです。

Telnet プロトコルの資格情報の入力と保存は常に UCMDB UI で行ってください。すでに UCMDB Browser から Telnet プロトコルの資格情報を入力、保存している場合は、追加の資格情報を入力および保存できるようにするため、**[UCMDB UI] > [Data Flow Probe 設定] > [資格情報マネージャ]** からその情報を削除します。削除した Telnet プロトコルの資格情報はいつでも UCMDB UI から再入力して保存することができます。

- **getIsCached()** が **true** に設定されていると、HybridUnifiedResourceDetails リソースでキャッシュの問題が発生します。
- [UCMDB 設定ウィザード] :マルチテナントを有効にした既存のデータベースに接続するとき、**[複数テナント]** 設定が選択されません。
- JMX メソッド **RunAgingNow** を呼び出すと、エラーが発生して失敗します。

回避策: JMX メソッド `runAgingAtDate` を代わりに使用し、日付フィールドを空にしておきます。このメソッドを呼び出すと同じ結果が返されます。

- UCMDB UI でパッケージの属性を編集して保存すると、最後に行った変更のみがリビジョンとして URM 履歴に保存され、その他すべての変更が削除されます。
- テナントにより利用されるデータに対しエンリッチメント・ルールを実行しても何も起こりません。
- [検索エンジン] : 現在の月と前の月の日数が異なっていて、現在の日付が前の月に存在しない場合（たとえば、2 月には 29 日がなく、今日が 5 月 29 日であるなど）、特定の期間に変更された CI の検索を実行すると、検索が正しく機能しません。
- あるロールがユーザに割り当てられている状態でそのロールを削除するときに、ユーザに対する影響があることを警告するメッセージが表示されません。
- JMX メソッド（`UCMDB:service=Model Services` > `deleteByClassType`）を使用してポピュレートされたデータを削除すると、JMX 実行時例外がスローされます。
- UCMDB をバージョン 9.05 からアップグレードすると、URM_Resources テーブルでの無効な入力 が原因で顧客設定リソースでエラーが発生することがあります。

回避策: URM_Resources テーブルの `Resource_Id` 列を `[ALLOW NULLs]` に設定します。

- [JMX - 検索] : カテゴリのサービスを検索すると、JMX 検索結果に重複したエントリが表示されます。
- `error.log` ファイルに多数の警告メッセージが記録されます。
- ユーザを作成してまだ保存していない場合に、新しいボタン（`[選択したユーザの個人用CIを作成します]` および `[すべてのユーザの個人用CIを作成します]`）が有効になります。

回避策: これらの新しいボタンをクリックする前に、`[保存]` ボタンをクリックして新しく作成したユーザを保存します。

- モデリング・スタジオのフォルダ・ツリーでドラッグ・アンド・ドロップによりサブフォルダをルート・フォルダに移動した後、新しく移動したフォルダにリソースを追加できない場合があります。また、`[保存]` をクリックして新規作成したリソースを保存するときに、新しく移動したフォルダがフォルダ・ツリーに表示されません。

回避策: リソース・ツリーを手動で更新すると、新しく移動したフォルダにリソースを追加できるようになります。

- `[マップレイアウト]` を `[直交]` に設定してビューを保存し、`[ダイレクトリンクの生成]` ウィザードを使用してそのビューにダイレクト・リンクを作成すると、リンクをテストしたときに、そのダイレクト・リンクのビューのトポロジが 2 回表示されることがあります。

回避策: ビューを保存するときに、`[マップレイアウト]` を `[直交]` に設定しないようにします。

- レポートを開いた状態で選択した列は、そのレポートのアーカイブが別のタブで開かれている場合は保存されません。
- テーブルの内容をアルファベット順にソートするための昇順 / 降順のアイコンが、一部のテーブルの見出しに表示されません。ただし、ソート機能は正常に動作します。
- IT ユニバースからビジネス・アプリケーション・タイプの CI を作成したときに、その `app_id` が、同じ新規 CI ウィザードで作成したすべての CI の `app_id` と同じになります。

回避策:各 CI を作成した後に、[新規 CI] ダイアログを閉じます。

- CI タイプを旧バージョンの UCMDB にインポートすることはできません。
- 通常は常に、[CI を結合] オプションを使用して手動で CI の結合を実行できます。ただし、UCMDB を別の製品（たとえば OMi）にデプロイしているときなど、場合によっては [CI の結合] オプションが使用できなくなることがあります。無効化された [CI の結合] オプションを有効にするには、[手動の調整を有効化] 設定（[インフラストラクチャ設定マネージャ] > [全般設定]）を使用して、手動での CI の結合を有効にします。[手動の調整を有効化] 設定の標準設定値は False です。
- ロール・マネージャの [一般アクション] タブで、動的ウィジェットと呼ばれるリソース作成アクションを使用して、モデリング・スタジオで（UCMDB Browser で使用するための）動的ウィジェットを新規作成できるユーザを管理する必要があります。
- 高可用性環境での作業の場合、その他の UCMDB クラスタへのフェールオーバーが発生するときは、まず実行前に HP 統合サービスのデータをクリアしなければなりません。データを消去するには、`..\UCMDB\UCMDBServer\integrations\tools\clearProbeData.bat` を実行してください。
- 高可用性環境では、UCMDB アプリケーションと UCMDB サーバ間の通信が暗号化される際にフェイルオーバーが発生すると、UCMDB アプリケーションからの再ログインが必要になります。この状況を回避するために、JMX 設定の `mam.common.secure.communication` で、UCMDB アプリケーションと UCMDB サーバ間の通信に関して暗号化をオフにします。
- Microsoft SQL Server とともにインストールされた UCMDB を使用する場合、UCMDB ではなくデータベースのデフォルト設定値から照合順序が取られます。データベース上の照合順序設定が UCMDB で定義された照合順序と一致することを確認する必要があります。
- 複数テナント環境の非管理ユーザがスナップショット比較レポートを作成すると、[Size] カラムに不正な値が表示されます。
- エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、CIT マネージャでは、いくつかの CIT とその接続関係を選択し [Export Map to Image with the Selected Object Only] オプションを選択すると、結果イメージに関係名が表示されなくなります。
- READ_ONLY_CLASS 修飾子が割り当てられている場合でも、CIT は編集できます。
- UCMDB Browser がマルチディスプレイ環境で実行されている場合には、画面キャプチャ・ツールではスクリーン・ショットをキャプチャできません。
- [ジョブリスト] ダイアログ・ボックス（スケジュールされたレポートまたはスナップショット）の [フィルタのクリア] ボタンは正しく機能しません。
- 影響分析マネージャで新しい影響ルールを作成したら、ウィザードの [影響ルールグループ] ページの [UCMDB] チェック・ボックスが選択されていない状態でも、作成した影響ルールを IT ユニバース・マネージャで実行できます。
- 「データベースに接続できませんでした」または「プールからの接続時のエラー」のエラー・メッセージが UCMDB `error.log` ファイル（`C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log\` ディレクトリ内）に表示される場合は、以下を実行します。
 - a. `connection_pool.conf` ファイル（`C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\conf\` ディレクトリ内）を開きます。
 - b. 次のパラメータを追加またはコメントを解除します。

maxPoolSize=100

connection_pool.conf ファイルは、データベース接続プールに関連するプロパティを設定するものです。デフォルト設定のコンテンツは次の通りです。

```
# DB Connection pool defaults.
#maxPoolSize=100
#minPoolSize=2
#maxWaitForConnectionSec=10
# 0=FAIL, 1=BLOCK, 2=GROW
#whenExhaustedAction=1
```

次の設定ができます。

- プール内の最大および最小接続数。
- **whenExhaustedAction** - 新しい接続を要求しプール内に空き接続がない場合に何をするか。有効な値は失敗、待機（BLOCK）、プールへの新規接続追加（GROW）のいずれかです。
- **maxWaitForConnectionSec** - 最大待機時間（**whenExhaustedAction=BLOCK** の場合）。
- UCMDB を Oracle データベースで実行するとき、ログに **ORA-00942:テーブルまたはビューが存在しないエラー**が表示された場合はデータベースが準備したステートメント・キャッシュが破損していることを意味します。準備したステートメント・キャッシュを削除するには、Oracle 管理者としてログインして次の SQL コマンドを実行してください。
alter system flush shared_pool
- SaaS などの複数顧客環境での作業では、マルチテナンシはサポートされません。
- <UCMDB ホーム>\conf\jetty.xml ファイルの **sendServerVersion** 設定が **false** に設定されている場合、Jetty のバージョンは HTTP 応答ヘッダに表示されません。

自動サービス・モデリング

・ 自動サービス・モデリング (ASM) のリソースの場所

リソース・タイプ	パッケージ内のリソースの場所	UI で表示されるリソースの場所	UI でのリソースの作成方法
アダプタ	\discoveryPatterns	アダプタ ([アダプタ管理])	[アダプタ管理] > [リソースの新規作成] > [新規アダプタ]
ジョブ	\discoveryJobs	ジョブ ([Universal Discovery] 内)	[Universal Discovery] > [ディスカバリ モジュール/ジョブ] > [ジョブを新規作成/モジュールを新規作成] > [ジョブの新規作成]
依存関係シグネチャ	\discoveryConfigFiles\dependencies	構成ファイル ([アダプタ管理])	[アダプタ管理] > [リソースの新規作成] > [新しい構成ファイル] 注: ファイル名の先頭に必ず “dependencies\” を付けること。
アクティビティ・タイプ	\serviceDiscoveryActivityType	Service Discovery アクティビティ・タイプ ([アダプタ管理])	UI でのリソース作成は不可。
アクティビティ・テンプレート	\serviceDiscoveryActivityTemplate	Service Discovery アクティビティ・テンプレート ([アダプタ管理])	[Service Discovery] > [Discovery アクティビティテンプレートの表示/編集] > [新規ディスカバリ アクティビティのテンプレート]

注: パッケージ内のリソースの場所のパスは、大文字と小文字が区別されます。

- ・ 次のチェックリストは、『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』の第 4 章「利用者とプ

ロバイダの依存関係のマッピング」の「完全な例」の項に関連する補足情報です。

利用者 / プロバイダを提供するために必要な全コンポーネントのチェックリスト（ファイル / アダプタなど）

- a. 既存の依存関係シグネチャ・ファイルに新しい依存関係シグネチャを追加するか、または新しい依存関係シグネチャ・ファイルを作成します。
- b. 必要な場合は、新しい依存関係ジョブ用のアダプタを作成します。
- c. 関連するディスカバリ・ジョブ（必要な場合）および依存関係ジョブ（新しいアダプタを作成した場合）の定義を Service Discovery アクティビティ・タイプの定義に追加します。
- d. 必要な場合は、標準設定値と異なるジョブ・パラメータを設定できるように新しいテンプレートを作成します。

・ **ASM コンテンツのサポート・マトリックス**

利用者 CI タイプ	プロバイダ CI タイプ	注意事項
J2eeApplication	Oracle	- Oracle の 1 つのインスタンスと RAC の両方をサポート - タイプ 2 (thick) ドライバとタイプ 4 (thin) ドライバの両方をサポート
J2eeApplication	Oracle Schema	
J2eeApplication	DB2Database	DB2 クラスタとメインフレームはサポートされない
J2eeApplication	MSSQL Database	SQL Server の 1 つのインスタンスおよびクラスタをサポート
J2eeApplication	IBM MQ Queue	
J2eeApplication	JMS Destination	- JMS Destination はキューまたはトピックのいずれか - WebSphere デフォルト・メッセージング・プロバイダをサポート - WebSphere MQ JMS プロバイダをサポート
J2eeApplication	J2eeApplication	- EJB 3.x アノテーションはサポートされない - EJB と WebService の両方の呼び出しをサポート - 同一の WebSphere セルで実行される 2 つの J2EE アプリケーションをサポート - 異なる WebSphere セルで実行される 2 つの J2EE

利用者 CI タイプ	プロバイダ CI タイプ	注意事項
		アプリケーションをサポート
HTTP Context	J2eeApplication	- Apache ProxyPass および ProxyPassReverse をサポート - Apache, IIS, IBM HTTP Server 用の WebSphere プラグインをサポート
BusinessElement	J2eeApplication	
BusinessElement	HTTP Context	
BusinessElement	ClusterResourceGroup	ロード・バランサ (F5, Cisco CSS など) をサポート
BusinessElement	ISAMJunction	WebSEAL をサポート

注:

- WebSphere はスタンドアロンとクラスタの両方がサポートされており、シェルと JMX のどちらでも検出できます。
- JBOSS はスタンドアロンがサポートされます。シェルの資格情報と JMX の資格情報の両方が必要です。
- EJB 3.x の依存関係はサポートされていません。EJB 3.x は (ソース・コード内の) アノテーションによって呼び出されるため、EJB 参照は構成ドキュメントでは使用できません。

- メモリの割り当て:** UCMDB は、Java ヒープ領域の標準設定である 4GB を使用してインストールされます。小規模から中規模サイズのデプロイメント (CI や関係の数が 100 万以下) の場合は、この設定で十分対応できます。

システムに保存されるデータの量がこのサイズを超える場合

は、..**UCMDB\UCMDBServer\bin\wrapper-platform.conf** ファイルを編集して

wrapper.java.maxmemory プロパティ値を **16394** に設定することで、Java ヒープ領域を大きくすることをお勧めします。

- ASM 用の JMX 設定:** ASM のパフォーマンスを向上させるために、**cmdb.search.result.repository.decay.time.sec** プロパティ値を 60 から **300** に変更することをお勧めします (JMX コンソールで、**setSettingValue** メソッドを呼び出してこの設定値を変更できます)。

Configuration Manager

- Configuration Manager インストーラで使用する統合ユーザのパスワードは、下のパスワード・ポリシーの 4 つの条件すべてを満たす必要があります。

- 数字
- 大文字
- 小文字
- 次の特殊文字のうち少なくとも1つ: `:\:/._?&%#+-[]|`
- UCMDB にポリシーをデプロイして、新しいカテゴリを割り当てると、ポリシーを再インポートする際にそのカテゴリは Configuration Manager に追加されません。
- UCMDB Browser の [Most Searched] タブと [Most Visited] タブは、Configuration Manager に埋め込まれたブラウザを使用するときには使用できません。
- リバース・プロキシ設定で作業しており、Firefox または Google Chrome ブラウザを使用する場合、JMX コンソールが HTML コードとして開きます。JMX コンソールを正しく表示するには、Internet Explorer を使用します。
- サーバ自動化の外部ポリシーは、バージョン 10.10 へのアップグレード後はアクティブ化されません。これらのポリシーをアクティブ化するには、JMX コンソールで **PolicyAnalysis** メソッドを実行して、**[refreshExternalPolicies]** をクリックします。
- 新しいビューを追加する際、**[更新タイミング]** を **[ビューの更新時]** に設定すると、自動的に **[1 日に 1 回]** として保存されます。**[更新タイミング]** を別の値に設定して、保存し直します。
- ログイン・ユーザの名前が [ホーム] ページに表示されない場合、そのユーザの UCMDB にロケールが定義されていることを確認してから Configuration Manager をログアウトし、再度ログインしてください。
- ポリシー・カテゴリ属性を使用してポリシー CIT をフィルタリングすることはできません。
- Configuration Manager は、SiteMinder Web Agent が IIS Web サーバで作業するよう設定されている場合には SiteMinder との統合をサポートしません。
- SiteMinder 認証を使用している場合は、Configuration Manager の特定ビューにポリシーを割り当てられません。
- コマンド・ライン importCS ユーティリティを使用してインポートできるのは、コマンド・ライン exportCS ユーティリティを使用してエクスポートされたファイルのみです。
- UCMDB サーバと Configuration Manager のサーバの時間設定は、秒単位まで同期されていなければなりません。
- UCMDB サーバとサービス・マネージャ・サーバの時間設定は同期されていなければなりません。
- HP Operations Orchestration 側の SSL 証明書が無効または期限切れの場合は、フローは [自動化管理] モジュールのフロー・ツリーに表示されません。
- 特定の CI に複数の Composition 関係がある場合に composition CI のいずれかを承認しようとする、特定 CI を含むその他すべての composition CI を承認するよう求められる場合があります。
- サマリーの表示レポートを非ラテン語系言語で PDF 形式でエクスポートする場合は、テーブル見出しの語は削除される場合があります。
- HP Operations Orchestration と UCMDB 統合のパスワードはデータベースで暗号化されるようにな

りました。あるマシンから構成セットをエクスポートし、別のマシンにインポートする場合は、必ず両方のマシンに同じ暗号化キーを使用してください。ソース・インストールからターゲット・インストールへと次の情報をコピーします。

- **encryption.properties** ファイル（場所：<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>/conf フォルダ）。
- セキュリティ・ディレクトリのコンテンツ（場所：<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>/security フォルダ）。

パスワード暗号化ユーティリティを使用して、**database.properties** ファイルの db.password キーを暗号化してください。Configuration Manager の [設定] モジュールで、古い構成セットのパスワードを再入力してから構成セットを保存およびアクティブ化します。

両方のマシンでキーが同一でない場合は、構成セットをインポートした後に、Configuration Manager の [設定] モジュールで、インポートした構成セットのパスワードを再入力してから構成セットを保存およびアクティブ化しなければなりません。

- Configuration Manager に追加した HP Operations Orchestration バージョン 7.51 からのフローを使用した場合は以下の問題が発生します。
 - 自動化を設定すると、[Single Value - Selection Lists] または [List of Values - Selection List] パラメータ・タイプを含がフローに含まれている場合は自動化リストにフローを追加できません。
 - 自動化を実行しようとしたときにパラメータ・タイプが [List of Values] の場合は、実行は失敗します。
- [Analysis Scope] に含まれる類似コンポーネント CI が多すぎる場合は [Environment Segmentation Analysis] モジュールのセグメント生成が失敗する場合があります（設定した類似レベルに基づく）。この問題を解決するには、次のいずれかの方法を使用します。
 - 範囲から CI を除外する
 - 類似レベルを上げる
- UCMDB の CI に行われた変更が Configuration Manager に反映されない場合があります。UCMDB エラー・ログに次のメッセージがある場合は、初期化パターンの限度に達していることを意味します。そのメッセージは、**最大初期化パターンの制限 [3000] を超過しています!!!!** です。
- [System > Settings] モジュールの [Topology Layout] では、管理対象属性はレイアウト例外の場合にのみ入力可能です。
- リンクが承認され認証操作が正常に行われた場合、希にリンクが非承認と表示される場合があります。CI を再承認しようとするすると認証プレビューのダイアログが内容なしで表示される場合があります。

回避策： 以下のように JMX を使用します。

- ビューを分析しコンポジット・リンク履歴の有効性を確認するには、次の手順を実行します。
 - JMX へのアクセス :**OfflineAnalysisJMX**
 - 操作の呼び出し :**checkViolatingLinks**
- すべてのビューを分析し不正なコンポジット・リンクを修正するには、次の手順を実行します。
 - JMX へのアクセス :**OfflineAnalysisJMX**
 - 操作の呼び出し :**fixViolatingLinks**

JMX へのアクセスの詳細については、『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を参照してください。

モデリング

- フローが2つのコンタクト・ノード IpAddress と別のものとのマッピングで IpAddress 用にマッピングされた場合、IpAddress フローはフォーカスを当てても UCMDDB ブラウザで確認できません。
- **【必須】 および【加重】** フィールドが UCMDDB スタンドアロンの IT ユニバース・マネージャの [新規 CI] と [Insert Relationship] のダイアログ・ボックスに表示されますが、これらは HP Business Service Management にのみ関連するものです。ドキュメント内のこれらのフィールドについての説明は無視してください。
- フォント・サイズが 14 ポイント以下の場合は、廃止 CI タイプは取り消し線付きフォントでは表示されません。
- [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスの [ルーティング] タブ ([レイアウト] > [レイアウト プロパティ] を選択してアクセス) ではすべてのオプションが利用可能なように見えますが、実際にマップのレイアウトで使用するのの一部のみです。
- エクスポートの CI インスタンスが選択済み TQL に対して見つからない場合は、ページあたり手動で最大 150,000 の CI を入力できます。
- モデリング・スタジオでは、表示またはクエリのために無効な XML ファイルをインポートしたときに情報エラー・メッセージは表示されません。
- 影響分析マネージャでは、サブグラフを定義した影響ルールを保存しようとする、問題に関する詳細情報のない汎用エラー・メッセージが表示されます。
- **【画面キャプチャ ツールを実行】** を使用して半透明のグラフィックを印刷すると、品質結果が低下します。
- [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスの [階層的] タブ ([レイアウト] > [レイアウト プロパティ] からアクセス) では、**[Minimum Backward Edges]** および **[Optimize For Feedback Flow]** のオプションは正しく動作しません。
- 新しい表示システムは現在、ルール・ベースのテンプレートに基づく IT ユニバース・マネージャ経由の結果表示をサポートしていません。
- CIT インスタンスをネットワーク・ポート番号プロパティとともに表示すると、カンマが不適切な場合でもネットワーク・ポート番号はカンマとともに表示されます。

- 計算された関係がエンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで選択されると、
[関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスの[修飾子] タブが機能しません（選択した修飾子は選択した関係に適用されません）。
- モデリング・スタジオで新しい TQL クエリに基づいてビューを作成する際、いずれかのクエリ・ノードに条件を追加してビューを保存し、ウィンドウを閉じずにビュー・トポロジを修正するとエラーが発生します。このエラーを回避するには、条件を追加してビューを保存した後にウィンドウを閉じてから、再度ビューを開いてトポロジに変更を行います。
- [要素インスタンスの表示] ダイアログ・ボックスにはフェデレート CI の外部アイコンは表示されません。
- モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタ [階層] 表示枠には、TQL クエリのフェデレート CIT の外部アイコンは表示されません。
- バイト型の定義済みの属性を編集するとエラーが生成されます。例えば、**Attachment CI** の **AttachementContent** 属性を編集するとエラーが発生します。ユーザ作成属性は安全に編集できます。
- モデリング・スタジオで [パターン ベース モデル スケジューラ] ダイアログ・ボックスを使用して開始日時とパターン・ベース・モデル更新の繰り返し間隔を設定することができます。[日次パターンベースモデル スケジューラの更新] を選択し、繰り返し間隔を時間単位で設定します。[詳細パターン ベース モデル スケジューラの更新] を選択し、cron 式で繰り返し間隔を設定します。
- マップ全体が表示されているときは、トポロジ・マップのズーム・アウト機能は表示されません。
- トポロジ・レポートに追加する階層レイヤが多すぎると、レポートを PDF にエクスポートする際にエラーが発生することがあります。

Universal Discovery

- Data Flow Probe (9.05 CUP13 を適用したバージョン 9.05) 上の MySQL データベースのサイズに空きがなくなると、その Probe がクラッシュする場合があります。
次に示す Data Flow Probe 用にデプロイされたストレージの要件に従ってください。
 - Data Flow Probe は、I/O パフォーマンスを特に重視したアプリケーションです。Probe を適切に運用するためには、データが存在するディスクで高い I/O パフォーマンスを実現することがきわめて重要です。
 - ディスクは、Data Flow Probe サーバのローカル・ディスクか、または高パフォーマンスの SAN 上のディスクである必要があります。
 - ネットワーク・ドライブおよびネットワーク・クラスタはサポートされません。
 - 一部のクラスタは SAN 環境で使用するの問題が発生することが報告されており、そうしたクラスタはお勧めしません。
 - 大規模環境の管理を目的として Data Flow Probe をインストールする場合は、事前にディスク

I/O パフォーマンスのベンチマークを実行します。

中規模から大規模の Data Flow Probe サーバ・デプロイメントの場合、推奨される最小スループット（Data Flow Probe サーバが実行中でないときにアイドル状態のシステムでベンチマークを実行した結果）は、読み取りアクセスでは 70 MB/sec、書き込みアクセスでは 40 MB/sec です。

ディスク容量の要件は、Data Flow Probe をどのように使用するかによって異なる場合があります。

注: パフォーマンス上の理由で、Data Flow Probe 用のデータが格納されるディスクには少なくとも 4K のクラスタが必要です。

- カスタマイズしたプロトコルを削除した後に、資格情報や範囲を編集または追加すると、「クラス・プロトコルが見つからない」というエラーがエラー・ログに記録されることがあります。

回避策:

- a. まず、削除したプロトコルを再度追加します。
 - b. **【データ フロー管理】 > 【Data Flow Probe 設定】** に移動し、**【ドメインとプローブ】** ナビゲーション表示枠で、前の手順で再度追加したプロトコルを見つけます。
 - c. このプロトコルの資格情報をすべて削除し、**【OK】** をクリックして変更を保存します。
 - d. カスタマイズしたプロトコルをもう一度削除します。
- 前のバージョンの Universal Discovery エージェントでは、エージェントが callhome イベント（たとえばマシンの再起動）を不安定なネットワーク接続に送信し続ける場合があります。その結果、多数の callhome タスクが未送信のキューに保存され、Data Flow Probe と UCMDB サーバの両方のパフォーマンスに影響を及ぼします。

（この問題が発生する）前のバージョンのエージェントが今でも環境にデプロイされている場合は、必要に応じて次の回避策を適用するとこの問題を解決できます。

その方法は、**GlobalSettings.xml** ファイルを開いて、パフォーマンスの問題を回避できるように **allowCallhomeInterval** パラメータを設定することです。

allowCallhomeInterval は、同じ IP アドレスを持つ同じノードからの callhome イベントが、設定可能な特定の期間内は無視されるようにすることができるパラメータで、標準設定値は 24（時間）です。0 より大きい整数値を指定できます。

- Data Flow Probe に付属しているインベントリ・ツール（パスは **C:\hp\UCMDB\DataFlowProbe\tools\InventoryTools**）のドキュメントが改良されて、概要がわかりやすくなり、アプリケーション・ルールや、アプリケーションをティーチングするためのファイル・ルールの使用方法の説明も改善されました。具体的には、次のトピックが追加されています。
 - ルールを使用したアプリケーションのティーチング
 - ファイルを使用したティーチング
 - ファイルベースの情報をを使用したティーチング方法

- **DataFlowProbe.properties** ファイルの **appilog.collectors.storeDomainScopeDocument** プロパティが **false** に設定されていると、リモート・プロセス・モードで実行されるジョブが失敗する可能性があります。これは、Probe Gateway と Probe Manager の serverData フォルダに **domainScopeDocument** ファイルが存在しなくなり、プロセスがメモリから **domainScopeDocument** ファイルを取得できなくなったためです。この設定が **false** の場合、このファイルはメモリにのみ保存されます。

回避策 : **appilog.collectors.storeDomainScopeDocument** プロパティの値は常に **true** に設定してください。

- 次のシナリオについて考えます (QCCR1H96212) 。
 - DDMI 環境と Universal Discovery 環境を同時に実行しています。
 - リモート・マシンで実行中のエージェントは、相互運用モードで実行されています。
 - エージェントは異なるスケジュールで実行されています。
 - DDMI サーバでは、**「スキャナの実行前に現在のスキャン・ファイルをダウンロード」** オプションが **「はい」** に設定されています。

このシナリオでは、DDMI サーバはスキャン・ファイルを取得します。ただし、このファイルは以前に Universal Discovery エージェントによって作成されたものである可能性があります。その結果、**scan/failed/error** ディレクトリで次のようなエラーが発生します。

"Internal error:gtid error "invalid ScannerType value: 18 "

この問題が発生するのは、Universal Discovery エージェントで作成されたスキャン・ファイルが 64 ビット版 Windows スキャナにより生成されていたためです。

この問題を回避する方法は次のとおりです。

- このエラーは無視しても問題ありません。最終的には DDMI スキャナが実行され、サーバにアップロードされます。
- DDMI サーバでオプション **「Download current scan file before running scanner」** を無効にします。
- エージェントがルート・アカウントを使用して開始され、sudo が Universal Discovery プロトコルの資格情報で構成されている場合、ディスカバリ・ジョブを実行すると「getSudoPassword failed - cannot get connected_os_credentials_id」という警告メッセージがレポートされます。これはディスカバリの結果には影響しないため、このメッセージは無視してかまいません。
- (Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 のみ) SAI ファイルをクライアント・ツールの Viewer に追加したとき、または管理者権限を使用しないで Viewer で行った変更を保存したときに、「Unable to write to C:\hp\UCMDB\DataFlowProbe\tools\InventoryTools\..\..\conf\Viewer.ini」というエラーが発生します。

回避策 : 使用するユーザ・ロールに、**C:\hp\UCMDB\DataFlowProbe\conf\Viewer.ini** ファイルに対する完全なコントロール権限を付与します。

- a. **Viewer.ini** ファイルを右クリックし、**プロパティ** を選択します。
 - b. Viewer の **プロパティ** ウィンドウで、**セキュリティ** タブに移動します。
 - c. **編集** をクリックし、ユーザ・グループに完全なコントロール権限を付与するか、使用するユーザ・ロールを追加して完全なコントロール権限を付与します。
 - d. **[OK]** をクリックします。
- カスタム正規化ルールは、接続先 CI の親クラスに対して正しく機能しません。
回避策 : 接続先 CI がある正規化ルールを作成するとき、エンド・タイプに対し親タイプを使用する代わりに正確なノード・タイプを指定してください。たとえば、ノード・タイプが **nt** の場合は、接続先 CI のエンド・タイプを **node** ではなく **nt** として指定します。
 - 複数のアクティビティのタイプが同じ（たとえばインフラストラクチャ）で、同じ管理ゾーンで構成されている場合、ジョブのディスパッチが正しく機能しません。
回避策 : 同じ管理ゾーン内に同じタイプのアクティビティを 2 つ以上作成しないようにしてください。
 - ワークフロー・ステップ内で使用される Jython スクリプトは、ライブラリ・スクリプトとして含まれている場合、予期せずに実行されます。
回避策 : 独自のワークフロー・ディスカバリ・アダプタを作成する際に、ワークフロー・ステップ内で使用される Jython スクリプトをアダプタ XML の **libraryScripts** セクションに含めないようにしてください。
 - CI を右クリックして **【デバッグ】** > **【検出を再実行】** > **【通信ログと記録の結果の有効化】** オプションを選択した後にワークフロー・ジョブを実行しても、結果が記録されません。
回避策 : 使用するアダプタの **【アダプタ構成】** タブにある **【通信ログに結果を含める】** で **【はい】** を選択します。
 - JMX メソッド **ImportCredentialsAndRangesInformation** で **NotAllowOverlap** を選択すると、既存の範囲が上書きされます。
 - DDMI / UD の部分認識では、アプリケーションが認識されるかどうかを判断する際にメイン・ファイル名のみが考慮されるようになりました。その結果、インストール済みソフトウェアの誤認識が多数発生する状態となっています。
 - アダプタ管理モジュールで XML ファイルに対し XML スキーマの検証を実行すると、参照される XSD ファイルがシステムで認識されず、検証対象として使用されないことがあります。
回避策 : UCMDB サービスを再起動します。
 - インフラストラクチャの **【データ フロー タスクの定期更新を有効化】** パラメータが機能するのが UCMDB サーバの再起動後のみで、直ちに有効にならないことがあります。
回避策 : UCMDB サービスを再起動します。
 - 2 つのスキャン・ファイルを Viewer で比較した後、フォルダ・アイコンが正しく表示されません。
 - 管理ゾーン内で手動スキャナ・デプロイメントを実行すると、「トリガを呼び出せない」というエラーが表示され、失敗します。
回避策 : IP 範囲をプローブに追加してから手動スキャナ・デプロイメントを実行すると、正しく動作します。

- Host Connection by Shell ジョブの**自動削除**設定が機能しません。
回避策:UCMDB に移動して、手動で CI を削除します。
- DDMI の移行を実行した後の【モジュールなし】の属性 **ScannerConfigurationFile** が正しくありません。
- TQL クエリの計算が古い TQL キャッシュに基づいて行われるために、外部リンクでサービス検出が停止しません。
- Data Flow Probe に接続しようとする時、NullPointerException (Error 302) 例外がスローされることがあります。この例外の原因となり得る問題は数多くあります。最初に Data Flow Probe 設定に **root_context** が含まれていることを確認してください。この例外が依然として発生する場合は、HP サポートに問い合わせてください。
- Universal Discovery エージェントを非ルート・ユーザで Solaris プラットフォームにインストールするとき、インストールが失敗した場合には、考えられる理由として、その非ルート・ユーザでは **/etc/passwd** ファイルの HOME フィールドに含まれるパスが存在しない、ということが挙げられます。

回避策: 次のいずれかの手順を実行します。

- **/etc/passwd** ファイルで、HOME フィールドに新しいパスを入力します。
- HOME フィールドの値に一致するディレクトリを作成します。
- マルチテナンシ・モードで作業する際は、プローブ・クラスタ内のすべての Data Flow Probe に同じデフォルト・テナントが定義されていることがベスト・プラクティスとなります。Data Flow Probe にそれぞれ異なるデフォルト・テナントが定義されている状況で範囲の再分散が生じると、検出済み CI のテナントは変更されません。
- IPv6 のみのネットワーク環境にいる場合には、次の制限があります。
 - Microsoft の既知の制限により、WMI は Windows 2003 を実行している IPv6 対応デバイスには接続できません。
 - Microsoft の既知の制限により、NTCMD は Windows XP を実行している IPv6 対応デバイスには接続できません。
 - Microsoft の既知の制限により、NTCMD は Windows 2003 を実行している IPv6 対応デバイスには接続できません。

回避策としては、<http://support.microsoft.com/kb/281308> を参照してください。

- 次のシナリオについて考えます。
 - a. スキャナ・スケジューラがインストールされています。
 - b. 64 ビット版のスキャナ (Windows) が、スキャン・ファイルを HTTPS を介してリモート・サーバに保存するように設定されています。
 - c. スキャナ・スケジューラによってスキャナが実行されます。

このシナリオでは、スキャン・ファイルは正常にアップロードされません。回避策としては、32ビット版のスキャナを使用するか、スキャン・ファイルを Data Flow Probe サーバに手動でコピーします。

- インベントリ・ツールのヘルプ・ドキュメントを含む CHM ドキュメントは、利用できなくなりました。ただし、PDF は引き続き利用可能で、インベントリ・ツールとともにインストールされます。

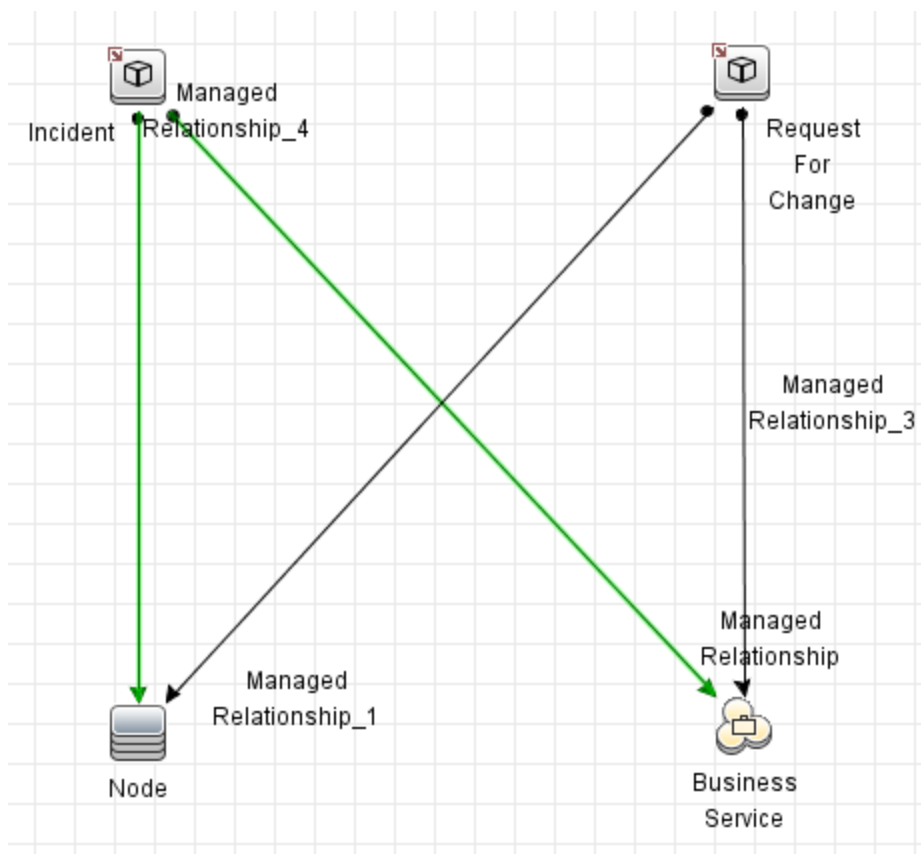
注: この PDF ドキュメントは、これまで「スキャン・データ・アナリシス」と呼ばれていました。

統合

- BDNA Normalize の統合が有効な場合、BDNA コンポーネント（BDNA Windows サービスなど）およびデータベース・サーバは、Data Flow Probe を実行するサーバにインストールされます。Data Flow Probe を実行するサーバが、Data Flow Probe および BDNA Normalize の両方のハードウェア要件の組み合わせに準拠していることを確認してください。

Data Flow Probe のハードウェア要件の詳細については、『HP Universal CMDB サポート・マトリックス』を参照してください。BDNA Normalize のハードウェア要件の詳細については、BDNA Normalize のドキュメントを参照してください。

- 2つの UCMDB CI タイプがあり、それぞれが2つ以上の外部 CI タイプ（Incident と RequestForChange など）と関係を持っている場合、UCMDB ではこれらの UCMDB CI タイプに対する連携 TQL クエリの結果を取得できません。一例として、次の図を参照してください。



- 既存のマッピング・ファイル内のコメントを新しいマッピング・ツールで開くと、そのコメントが削除されます。
 - インフラストラクチャ・サービス - Containment > [Application Service, Business Service] 関係は、ポピュレーションを通じて UCMDB に正しく同期できません。
 - ポピュレーション中に CI を結合するときに、NodeRole の値が結合されません。
 - DiskDevice, FileSystem, Interface, または CPU 属性について 2 台のコンピュータが同じ値を共有している場合に、コンピュータ・ポピュレーション・ジョブを実行すると、1 つの子 CI が作成されてその 2 台のコンピュータによって共有されます。2 台のコンピュータ用に別々の子 CI が 2 つ作成される、というのが期待されていた動作です。
 - 連携構成ファイル **smFedConf.xml** でマッピング・エントリが構成されていないフィールドを無効にすることはできません。
 - 構成フィールドは、UCMDB から Service Manager への CI のプッシュではサポートされません。
 - **Ignore on null** オプションは、UCMDB から Service Manager へのデータのプッシュには使用できません。
 - [外部クラス モデル] 表示枠に表示できない外部クラスが含まれる定義済みの XML マッピング・スクリプトの一部で、視覚マッピング・ツールを無効にできません。
- 該当する定義済みマッピング・スクリプトは次のとおりです。

- CLIP Downtime Population マッピング・スクリプト
- 関係のプッシュおよびポピュレーション用マッピング・スクリプト
- 連携用マッピング・スクリプト
- ある TQL クエリに、ルートの子 CI タイプに対して公開された異なるフィールドが含まれている場合、それらの公開されたフィールドの一部が視覚マッピング・ツールに表示されません。そのため、表示されないフィールドについては、視覚マッピング・インタフェース内でドラッグ・アンド・ドロップを使用してマッピングを設定できません。
回避策: 該当するフィールドのマッピングは、XML エディタで直接設定します。または、クエリを複数のクエリに分割してから視覚マッピング・ツールを使用します。
- CI 関係の削除は UCMDb にポピュレートできません。
- CI が Incident および Problem と関連付けられている場合、[CI の検索] 表示枠では連携が機能しません。
- Service Manager 拡張汎用アダプタで提供される定義済みの連携 TQL クエリは、一部の定義済みデータに対応していません。たとえば、RunningSoftware の子 CI タイプに影響する Service Manager Incident の連携に対応した TQL クエリは提供されていません。
回避策: より多くの連携のユース・ケースをサポートできるように定義済み TQL クエリを手動で拡張します。詳細については、『HP UCMDb Discovery and Integrations Content Guide - HP Integrations』を参照してください。
- サブ CI について 2 台以上のコンピュータで同じ値が使用されている場合、DiskDevice, FileSystem, Interface, CPU が共有されます。
- UCMDb サーバの **error.log** ファイルにプロパティ検証についての例外があります。
回避策: プロパティ検証の例外はランダムに発生します。この例外は無視できます。機能に対する影響はありません。
- HP Service Manager からサブ CI を削除した場合、ポピュレーションによって UCMDb に同期されることはありません。
- CPU をポピュレートする際にマッピングに 2 つの調整が存在する場合、システムは両方のルールをチェックします。その結果、「無視された CI が結果に含まれています。詳細については、cmdb.reconciliation.log を参照してください。」というエラーが発生することがあります。
- ホスト IP が正しくない場合、[テスト接続] をクリックするとエラー・メッセージが表示されますが、どこに問題があるのかがはっきり示されません。
- 拡張汎用アダプタを使用して Enum タイプの属性をポピュレートすることはできません。
- [汎用アダプタ] : 2 つの CI に対し手動ポピュレーションで作成したリンクの履歴には、両方の CI からの情報が追加されます。
- [汎用アダプタ] : 受け取った属性タイプがマッピング・ファイルで宣言されている属性タイプと異なる場合、アダプタ・ログには何の情報も表示されません。
- 汎用アダプタの検証用マッピング・ファイル・スキャナで使用する findNode メソッドは正しく機能しません。
- TQL クエリ要素の名前が長すぎると、[視覚マッピング] 表示枠に一部が表示されません。

- [視覚マッピング] 表示枠に、複数の Service Manager CI タイプを追加できます。
- 新しいマッピング・ツールの UI で **保存** ボタンをクリックしたときに、最新の更新内容に対する検証が実行されません。
- データ・プッシュおよびポピュレーションのシナリオで、マッピング・ファイルに SM および UCMDb のフィールドがあるかどうかについての検証が行われません。
- **fcmdb.push.all.log** および **WrapperProbeGw.log** での外部 ID とグローバル ID のマッピングについて、汎用アダプタのログ情報が不十分です。
- Service Manager の統合中にポピュレーション・ジョブが失敗し、UCMDb のプローブ・ログで次のエラーが表示された場合は、次の手順を実行します。 “「sm_id は空の値にマップされています」”
 - a. SM で、CI 名に含まれている次の文字を削除します。引用符 (") , 小なり記号 (<) , 大なり記号 (>) , アンバサンド (&)
 - b. ポピュレートを再度行います。
- Service Manager の統合中にフル・ポピュレーションで RunningSoftware CI に関するエラーが返された場合に **Run Job - Synchronize Changes** を実行すると、フル・ポピュレーションに続くこのジョブも失敗します。ポピュレーション・ジョブの実行前に、RunningSoftware CI とそれらの関係の整合性を確実なものにすることをお勧めします。次の手順を実行して、CI を確認します。
 - a. Service Manager で、**カスタマイズ -> スクリプト・ライブラリ** に移動し、新しいスクリプトを追加します。
 - b. JavaScript コードを新しいスクリプトの下部に貼り付け、**実行** をクリックします。
 - c. メッセージが表示され、失敗した RunningSoftware CI が示されます。それらの CI について、データを修正します。
 - d. UCMDb で、フル・ポピュレーション・ジョブを再度実行します。

JavaScript コード

```
printlnInvalidRunningSoftware();
/**このシンプルなスクリプトは、無効な実行中ソフトウェア・レコードを検出する目的で使用されます
。ノードに対する実行中ソフトウェアの構成のみがサポートされます。
ここまでは OOTB。関係の伴わない実行中ソフトウェアがリストされます。
存在しないデバイスを伴う実行中ソフトウェアがリストされます。
**/
function printlnInvalidRunningSoftware() {
  var device = new SCFile("device");
  var rc = device.doSelect("type=\"runningsoftware\" and istatus~=\"retired\"");
  var count=0;
  while (rc == RC_SUCCESS) {
    //実行中ソフトウェアの名前に基づき、関係を選択します
    var relationship = new SCFile("cirelationship1to1");
    var crcc = relationship.doSelect("downstreamci.logical.name = \"\" + device.logical_name + \"\" and
upstreamci.type=\"computer\" and downstreamci.type=\"runningsoftware\" and
relationship.subtype=\"Composition\" and status~=\"Removed\"");
```

```

//実行中ソフトウェアの最初のアップストリーム CI が検出されました
if (crrc == RC_SUCCESS) {
    var nodeFound = false;
    while (crrc == RC_SUCCESS) {
        //存在するコンピュータを選択します
        var nodeDevice = new SCFile("device");
        var noderc = nodeDevice.doSelect("logical.name =\"" + relationship.upstreamci_logical_name +
"\\" and istatus~=\"retired\"");
        if (noderc == RC_SUCCESS) {
            nodeFound = true;
            break;
        }
        crrc=nodeDevice.getNext();
    }
    if (nodeFound) {
        //print("qualified " + device.logical_name + " with CI " + nodeDevice.logical_name);
    }
    else {
        count++;
        print("Error:missing exist upstream CI:" + relationship.upstreamci_logical_name + " for
runningsoftware:"+device.logical_name);
    }
}
else {
    count++;
    print("Error:no qualified relationship for runningsoftware:" + device.logical_name);
}
rc = device.getNext();
}
print("Done:"+count+" errors found");
}

```

連携

- 問題が Node と Running Software の両方に関係している場合、その問題に対しクエリを実行できません。

回避策: 連携の要求中に次のエラー・メッセージが表示された場合は、アダプタ連携をサポートしている調整クラスが ID 調整またはグローバル ID 調整のいずれかに対応できるように、その調整クラスの設定を更新します。

...fillConcreteReconciliationTypesAccordingToAdapterClasses is not supported for adapters that do not use ID reconciliation nor globalId reconciliation

アダプタ XML 構成ファイルで宣言することによりこの設定を行うには、次の手順を実行します。

- 調整をサポートしているクラスで **is-id-reconciliation-supported** 属性を使用します。次に例を示します。

```
<supported-class is-derived="true" all-attributes-supported="true" name="business_element" is-reconciliation-supported="true" is-id-reconciliation-supported="true" />
```

- 次のように、調整クラスで唯一サポートされている属性のみを宣言することにより、グローバル ID 調整を使用します。

```
<supported-class is-derived="true" all-attributes-supported="false" name="business_element" is-reconciliation-supported="true" >
  <supported-attributes>
    <attribute>
      <name>global_id</name>
      <type>string</type>
    </attribute>
  </supported-attributes>
</supported-class>
```

なお、この設定はプログラムで（統合 API を使用して）行うこともできます。

- 外部データ・ソース（連携）からデータを取得する可能性のあるクエリ・ノードのプロパティ状態を設定し、状態がいずれのデータ・ソースからもサポートされていない場合は、TQL クエリ計算が失敗します。
- フェデレート・ノードは、データ・ソースが外部にしかない場合でもローカル CMDB からの不正な「候補値」を表示する場合があります。
- 統合ポイントが IT ユニバース・マネージャの CI セレクタでクエリされている CIT をサポートしており、この統合ポイントが表示ラベル上の条件をサポートしていなければ、結果は表示されません。
- フェデレート TQL では、フェデレート・リンク（ローカル TQL 要素とリモート TQL 要素間のリンク）のプロパティを取得できません。
- 汎用アダプタ・フレームワークでは、2つのリモート TQL 要素間のリンクが含まれるフェデレーション TQL はサポートされません。

LW-SSO

LW-SSO の作業をする際のセキュリティの詳細については、『HP UCMDB および Configuration Manager 強化ガイド』の「Lightweight シングル・サインオン（LW-SSO）認証の全般的な参照情報」を参照してください。

LDAP

- LDAP が有効化された Web サービスを使用すると、Web サービスはデフォルトで LDAP 認証フローを最初に通過するため、パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。

多言語サポート

- XML UI ウィンドウは、ローカライズされた文字列の表示には対応していません。
- ノード・サマリ・レポート（【モデリング】>【レポート】>【カスタム レポート】>【インベントリ】>【ノード サマリ レポート】）の列見出しは、ロケールが英語に設定されているときでもローカライズされて表示されます。
- 互換性のため、統合ポイント名およびデータ・フロー管理ジョブ名に使用できるのは英数字および下線（_）のみです。
- 多くの UCMDB パラメータの最大文字列長はバイト単位で定義・記載されていますので、マルチバイト文字や言語固有文字を使用する場合に実際に許容される文字数はさらに少なくなります。
- エンリッチメント・マネージャでは、日本語、中国語、韓国語バージョンでは【**Node Definition**】ダイアログ・ボックスの必須属性が太字で表記されません。
- UCMDB インストール・パスまたはその他のプロパティやアダプタ・ファイルのパスには英語以外の文字を使用しないでください。
- ユーザ・パスワードにマルチバイト文字を使用しないでください。
- スケジュールされたジョブのアクション名はローカライズ済みの名前（使用ロケールに基づく）で保存されますが、これらの名前はロケールへの依存性なく表示されます。これらのアクション名は、ユーザにより修正が可能であるため、ユーザ固有のものとなります。
- マルチバイト文字を使用して電子メール設定を行うことができるようになりました。これらの設定は、インフラストラクチャ設定マネージャに移動されました。
- HP Universal CMDB では、サロゲート・ペアおよび結合文字は完全にはサポートされていません。
- 言語パックをインストールする必要はありません。初回リリースに含まれている翻訳済み言語はすべて、HP Universal CMDB の多言語ユーザ・インタフェース（MLU）に統合されています。
- Web ブラウザの言語が変更されても、データは入力された言語で残されます。ローカル・マシンで Web ブラウザの言語を変更しても、データ入力定義およびデータ入力設定の言語は変更されません。
- 新しいユーザの名前に 20 文字より多い東アジア文字が含まれていると、【ユーザとロール】で新しいユーザを作成できません。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のユーザおよびロールを説明しているセクションを参照してください。
- 次のページは、英語でのみ表示されます。ほかの言語には翻訳されていません。
 - 【HP Universal CMDB server status】HTML ページ
 - 【JMX コンソール】ページ

- **【API 接続テスト】 ページ**
- UCMDB MLU がサポートしていない言語をクライアント・マシンで選択すると、HP Universal CMDB は英語で表示されます。
- **【名前】**，**【表示名】**，**【詳細】** などのフィールドの中の複数バイト文字の使用時は、必ず文字数をフィールドのバイト制限に準拠させます。たとえば、1 バイト文字が 100 文字という制限がフィールドにある場合、それぞれ 3 バイトのマルチバイト文字を最大 33 文字使用できます。
- SAI Editor，Viewer，および Analysis Workbench が含まれるインベントリ・ツールは、英語でのみ使用できます。

機能強化要求

HP UCMDB, UD, 10.20 で実装された機能強化要求について、次の表で説明します。

グローバル ID	説明
QCCR1H29864	CI 変更レポートの出力に含まれる変更のタイプをユーザが選択できるようにするため、2つのチェックボックス（ 【CI の変更】 および 【関係の変更】 ）が追加されました。
QCCR1H70376	UCMDB レポートの 【表示ラベル】 列でレポート・レイアウトが維持されるようになりました。
QCCR1H76240	グラフ表示で最初に開いたカスタム・レポートのカスタム列が保存されるようになりました。 タブがいくつかあるレポートで、列のレイアウトが個別に保存されるようになりました。
QCCR1H87607	新しいチェックボックスが追加され、ユーザが標準設定値の 【いいえ】 を選択できるようになりました。
QCCR1H87641	LW-SSO:ドメイン拡張子の長さを設定できるようになり、ドメイン拡張子が長すぎる場合に発生するログインの問題が解消されました。
QCCR1H64132	CI 変更レポートおよびビュー変更レポートに含まれる変更のタイプをユーザが選択できるようにするため、2つのチェックボックス（ 【CI の変更】 および 【関係の変更】 ）が追加されました。
QCCR1H75857	複数の項目を選択しているときの削除操作ができるようになりました。 アーカイブの削除では、選択中の項目をシステムがループして、1つずつ削除していきます。
QCCR1H76453	ログインしたユーザのメール・アドレスが定義済みの場合、そのユーザがメールでレポートを送信するときにアドレスが自動的に 【レポート】 > 【メールで送信】 > 【*送信元】 フィールドに追加されます。
QCCR1H78603	監査ログを使用できるようになりました。
QCCR1H83181	証明書チェーンを使用した双方向の SSL 証明書認証を有効にできるようになりました。詳細については、『HP Universal CMDB 強化ガイド』を参照してください。
QCCR1H85577	Web Services API の例が更新されました。
QCCR1H86054	ビューを参照してその結果を CMDB Browser に返す機能が追加されました。

グローバル ID	説明
QCCR1H89170	【ユーザ管理】: 多数のユーザを処理できるようにするため、UCMDB UI に LDAP ユーザをソートする機能が追加されました。
QCCR1H89388	【ログアウト時の転送先 URL】という新しいインフラストラクチャ設定が作成され（標準設定は <code>/login_page.jsp</code> ）、ユーザがログアウトしたときに、この設定で指定されたアドレスにリダイレクトされるようになりました。
QCCR1H90235	エクスポートしたレポートに、オンラインでの変更が反映されるようになりました。
QCCR1H90626	新しいチェックボックスが追加され、インフラストラクチャ・ディスカバリ・アクティビティのエージェント構成を、エージェント自体をアップグレードせずに更新できるようになりました。
QCCR1H90806	UCMDB Browser の初回ログイン時に、起動までに時間がかかること、および Browser のドキュメントにリンクすることを説明するページが表示されるようになりました。
QCCR1H93835	UCMDB Browser の【パースペクティブ】フォルダは、UCMDB レポート・モジュールと同様に空になりました。
QCCR1H93953	CI CMDB ID と CI グローバル ID の両方を処理できるように UcmdbService calculateImpact() メソッドが改良されました。
QCCR1H95021	処理用のスクリプト prescan.cmd および postscan.cmd と一緒に、ほかのファイルを使用して配信できるようになりました。それにより、VBS スクリプト・ファイルを配信して prescan.cmd スクリプトから実行できるようになっています。
QCCR1H96636	Oracle12c データベースのサポートが追加されました。
QCCR1H26918	視覚マッピング・ツールの実装により、HP Service Manager と統合するための XML / XSLT ファイルの編集が容易になりました。
QCCR1H85804	UCMDB Browser で、ログオン（アクセス）が正常に行われたときに、最終ログオン（アクセス）の日付と時間がユーザに通知されるようになりました。
QCCR1H85805	【ユーザごとに許可されるセッションの最大数】という新しい設定（【管理】 > 【インフラストラクチャ設定】 > 【セキュリティ設定】内）が追加され、同時セッションを管理できるようになりました。標準設定値は「0」です（セッション数に制限がないことを意味します）。

修正された UCMDB, UD, CM 10.20 の欠陥

次の表に、HP UCMDB, UD, CM 10.20 で修正された欠陥を示します。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H91517	WebSEAL の統合中、WebSEAL が PD セッション cookie をバックエンドに渡すときに発生する問題を修正しました。 mam.web.should.read.web.browser.cookies という新しい設定が追加され、この設定が true のときはアプレット開始時にブラウザの cookie が読み取られます。これにより、WebSEAL が PD セッション cookie をバックエンドに渡さなくても WebSEAL を統合できるようになります。
QCCR1H97020	deactivateAllEnrichments エンリッチメント・サービスが JMX コンソールに追加されたことにより、UCMDB 内のすべてのエンリッチメントの非アクティブ化を一度に行うことができるようになりました。
QCCR1H90240	ID=MERGED_TO の MERGED_CIS テーブルから行を削除できるように、現在の JMX メソッド（ 【JMX】 > 【調整サービス】 > 【cleanMergedCisTable】 ）に機能を追加することにより、調整サービスを改良しました。
QCCR1H94660	getSupportedPopulationQueries の呼び出しでアダプタから null が返された場合に、システム内のすべての TQL を選択できるようになりました。
QCCR1E117592	（汎用プッシュ・アダプタ）：ヒープ・メモリ・サイズを 2GB に拡張しました。また、40k を超えるコンピュータがプッシュされた場合に、"OutOfMemoryError" エラーによりプッシュ・ジョブが失敗することがなくなりました。
QCCR1H94951	管理ゾーン内のジョブのトリガ CI のステータスが【実行中】のまま変わらないという問題を修正しました。
QCCR1H65581	SSL 経由での RTSM から CMS への同期を統合する方法についての説明を追加しました。
QCCR1H89315	TQL スケジューラによってトリガされる TQL 計算のパフォーマンスが向上しました。
QCCR1H89728	空の属性を更新するための調整優先度の動作が改善されました。
QCCR1H90300	UCMDB サーバがプロキシの背後にある場合に機密マネージャが資格情報を取得できない問題を修正しました。
QCCR1H90327	再ディスパッチ・トリガ CI の新しいキューのサイズが急激に大きくなる問題を修正しました。
QCCR1H90859	証明書の【サブジェクトの別名】（SAN）フィールドからユーザ名を抽出する方法を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H91767	基本の JoinF 関係用に JoinF SQL を作成する方法を改良しました。
QCCR1H92944	検出スレッドが中断された後は検出サービスが返されないことが原因で検出プロセスから更新を送信できない問題を修正しました。
QCCR1H94309	PostgreSQL DB のバッファ・サイズが小さいためにプローブの PostgreSQL DB が予想外に大きくなる問題を修正しました。
QCCR1H75734	UCMDB の再起動後、インポートしたビューをモデリング・スタジオで開けないという問題を修正しました。
QCCR1H80842	CI タイプのアイコンで、BODY_ICON がファクトリ属性として、また上書き用の属性として使用される場合に、アイコンが適宜更新されない問題を修正しました。
QCCR1H85619	UCMDB のランディング・ページから Configuration Manager にアクセスできない問題を修正しました。
QCCR1H87007	パースペクティブ・ベース・ビューのスナップショットを比較すると不正な結果が返される問題を修正しました。
QCCR1H88206	Configuration Manager 10.x でルート・コンテキストを設定する方法についての説明を追加しました。
QCCR1H88471	アクティブな TQL 計算で、サポートされている値よりも結果が大きいためにタイムアウトになり計算がキャンセルされるという問題を修正しました。
QCCR1H88630	プロパティ・フォームのダイアログ・ボックスが編集可能モードになっているときに、正しいユーザ権限が適用されるようになりました。
QCCR1H88717	アプリケーション・ブレイクダウン・レポートで、レポートに表示される IIS Web サーバの数と CI タイプ・マネージャに表示される IIS Web サーバの合計数が異なるという問題を修正しました。
QCCR1H88731 QCCR1H89784	"without" キーワードを使用して CI に対するクエリを処理したときに検索エンジンから不正な結果が返される問題を修正しました。
QCCR1H88734	Data Flow Probe が SCCM ビューからデータを取得しようとしたときにタイムアウトになる問題を修正しました。
QCCR1H88736	Data Flow Probe の起動中に Quartz スケジューラが新しいバージョンをチェックしようとする問題を修正しました。
QCCR1H88759	Web Service API の使用中、チャンキングが原因で予期しない応答が返される問題を修正しました。
QCCR1H88790	CI 変更レポートを Excel ファイルにエクスポートしたときに発生する、レポート

CR グローバル ID	説明
	の日付値の形式に関する問題を修正しました。
QCCR1H88798	UCMDB サーバが non-global-id-generator として設定されていると、global_id プロパティがソースの UCMDB にプッシュされないという調整に関する問題を修正しました。
QCCR1H89070	特定のリソースのエンリッチメント・ルールをアクティブ化 / 非アクティブ化するためのボタンが GUI に表示されない問題を修正しました。
QCCR1H89421	Unified Resource Manager (URM) が、メモリに正しくロードされないリソースを処理できない問題を修正しました。
QCCR1H89507	Unified Resource Manager (URM) で、追加されたリソースの名前がデータベースの制限を超えていないか検証する際に発生する問題を修正しました。
QCCR1H89529	識別フローのパフォーマンスを改善しました。
QCCR1H89553	URM リソース名の最大サイズを 900 文字に変更しました。
QCCR1H89625	replication.preserve.identification.integrity というアダプタ設定を追加して、「非インスタンス・ベース」モードでのデータ・プッシュに対するデータ整合性ルールの使用を有効化または無効化できるようにしました。
QCCR1H89644	UCMDB Configuration Manager 用ログイン・パスワードの大文字と小文字の区別に関する問題を修正しました。
QCCR1H89652	アプリケーション署名に追加された属性が保存されない問題を修正しました。
QCCR1H89732	CI を右クリックしてもコンテキスト・メニューが開かない問題を修正しました。
QCCR1H89793	同じサイズの文字列リストを複数処理するとパフォーマンスが低下する問題を修正しました。
QCCR1H89901	view.fuse.maximum.models.in.result という設定を追加して、モデルの標準設定数を制限できるようにしました。
QCCR1H89971	UCMDB で連携が有効になっているときに、UCMDB API の TopologyUpdateFactoryImpl で文字列から Ucmdbid に変換する ID が外部 ID かどうかチェックされないために、統合製品 (Release Control など) で変更が処理されないという問題を修正しました。
QCCR1H89984	クラス・モデルの重複したトリプレットを削除できるように、null ポインタ例外を修正しました。
QCCR1H90089 QCCR1H90114	パッケージ・マネージャでパッケージを編集するときのパフォーマンスを改善しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H90128	CI に対する削除要求が削除されない問題を修正しました。この問題は、Service Manager によるプッシュ統合が失敗したときに発生していました。
QCCR1H90148	列挙型リストを編集できるようになりました。
QCCR1H90269	MERGED_CIS テーブルで削除された CI に対応して、使用されなくなった行を削除するための JMX メソッドが作成されました。
QCCR1H90376	欠落している履歴テーブルの URM リソースに対してパージを実行しても削除されない問題を修正しました。
QCCR1H90546	LDAP ユーザに手動で割り当てられたロールが、CUP をアップグレードした後に削除されなくなりました。
QCCR1H90649	相互認証により ping コンポーネントが HTTPS にマップされるようになりました。
QCCR1H90698	TQL 構造オブティマイザによって非常に大きなプロパティ条件が作成される問題を修正しました。
QCCR1H90786	一連の認証局を使用してプローブとサーバの間の相互 SSL 認証を設定する方法についての説明を追加しました。
QCCR1H90793	CI プロパティ・フォームを閉じると関連する CI が非表示になる問題を修正しました。
QCCR1H91020	XML Enricher 用のラッパー jar ファイルで古いバージョンが使用される問題を修正しました。
QCCR1H91077	Apache Ant がインストールされたソフトウェアをスキャナベースのインベントリで認識した結果に一貫性がないという問題を修正しました。
QCCR1H91378	LW-SSO が有効化されていると JMX 呼び出しが正常に完了しない問題を修正しました。
QCCR1H91491	「SM Computer Push」TQL クエリの「要素インスタンスの表示」オプションで複数の条件を指定したフィルタを設定するときに発生する問題を修正しました。
QCCR1H91496	モデルをロードするときに CI の数およびレベルの数を制限するための設定を 2 つ追加しました。
QCCR1H91560	CI タイプ・マネージャでクラスからカスタム属性を削除すると不適切な結果が生じる問題を修正しました。
QCCR1H91644	AbstractDispatchActionFlow.getProbeFromHost() が IP アドレスから ipprobenam 属性を取得する際、この IP が管理ゾーンの範囲内で構成されているかどうかをチェックされないという問題を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H91787	すべてのグループの保存済みの検索から結果を取得するときのパフォーマンスを改善しました。
QCCR1H91853	パッケージ・マネージャに表示されるスクリプト内の特殊文字が文字化けする問題を修正しました。
QCCR1H92156	スキャン・ビューアには Microsoft SQL サーバ・アプリケーションが表示される一方で、UCMDB では必要な CI が作成されない問題を修正しました。
QCCR1H92157	auto.zsai SAI ファイルの作成後に XML Enricher サービスが停止する問題を修正しました。
QCCR1H92727	Web サービス UcmdbService.getChangedCIs が、「[200007].Permission check is not allowed」というエラーによりクラッシュする問題を修正しました。この問題は、ログインしたユーザがいない場合に発生していました。
QCCR1H92793	ログインに時間がかかる問題を修正しました。
QCCR1H92925	ユーザが LastMonth オプションをパラメータとして選択した場合に変更レポートを生成すると発生する問題を修正しました。
QCCR1H93152	プローブ制限を 無効 にしてジョブを再度実行すると、すべてのトリガが実行されるという問題を修正しました。
QCCR1H93171	CI リゾルバで BSM 9.22 のノードしか解決されない問題を修正しました。
QCCR1H93238	クラスタから検出された IP アドレスがホスト接続ジョブでディスパッチできない問題を修正しました。
QCCR1H93356	【影響を表示】機能を実行すると、ユーザが影響の範囲を正しく確認できなくなる問題について、UI でいくつかの問題を修正しました。
QCCR1H93361	Jetty が組み込まれた UCMDB Browser で HTTPS を使用できない問題を修正しました。
QCCR1H93396	UCMDB 9.x の統合アダプタが一部のコンテナ・タイプからの CI を転送できない問題を修正しました。この修正を適用するには、Cmdb9xAdapter パッケージを手動で再デプロイします。
QCCR1H93507	cmdb-mgmt-api が getCmdbDatabase() を呼び出したときに発生する問題を修正しました。
QCCR1H93529	Configuration Manager サーバの自動ステータス遷移が自動的に動作しない問題を修正しました。
QCCR1H94312	Data Flow Probe で "ddm_gw_task_results_pkey index violation" により SQL エラー・メッセージが返される問題を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H94335	SCCM アダプタが一時テーブルを使用するように設定される問題を修正しました。
QCCR1H94858	10.10 から 10.11 へのアップグレード後に、ディスカバリ・ジョブが利用可能なすべての CI のトリガを停止する問題を修正しました。
QCCR1H94957	システムを再起動したときに Probe サービスが再起動しない問題を修正しました。
QCCR1H95017	Inventory Discovery by Scanner ジョブを実行したときにトリガの正確な数が表示されない問題を修正しました。
QCCR1H95047	adapter_config クラスの server_side 属性が欠落しているために 9.05 から 10.10 へのアップグレードが失敗する問題を修正しました。
QCCR1H95064	NNMi からの Layer2 Topology Import ジョブが、「ORA-12899: 列 "UCMDB10"."DDM_TEMP_MAPPINGS"."TEMPID" の値が大きすぎます (実際 :53, 最大 :43)」というエラーにより失敗する問題を修正しました。
QCCR1H95123	新しく作成されたクラスで root_iconproperties に属性修飾子が含まれているとエラーが発生する問題を修正しました。
QCCR1H95202	【アダプタ管理】 > 【リソース】 > 【パッケージ】 > <<パッケージなし>> からカスタム・アダプタおよびスクリプトが削除されるという問題を修正しました。
QCCR1H95274	新たにインストールされたプローブまたは UCMDB 統合サービスが、基本認証が有効な UCMDB サーバに接続できない問題を修正しました。
QCCR1H95285	Inventory Discovery by Scanner ジョブの実行中に、 WrapperProbeGw.log ファイルに次の警告メッセージが返される問題を修正しました。 "Can not execute the script.The reason is forceDontExecute=false or the script file contains mainfunction=false"
QCCR1H95439	UCMDB Browser で検索を実行するとサーバがフリーズする問題を修正しました。
QCCR1H95471	Push IDs into NNMi アダプタを使用すると、 "The ucldb_wrapper.jar module, which is not valid, caused null" および "java.lang.ExceptionInInitializerError" というエラーが RemoteProcesses.log に記録される問題を修正しました。
QCCR1H95546	Data Flow Probe で、検出およびサーバへの結果の送信がランダムに停止する問題を修正しました。
QCCR1H95600	外部ポリシーの結果が Configuration Manager に表示されない問題を修正しました。
QCCR1H95916	同じ IP を持つ UNIX ノードが正しく結合されない問題を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H95996	Configuration Manager の一致ルールで、ベースラインに対し誤った CI が比較される問題を修正しました。
QCCR1H96218	ディスカバリの結果の処理中に、UCMDB Server から Java ヒープ領域のメモリ不足エラーがスローされる問題を修正しました。
QCCR1H96325	ccm_discovery_dests テーブルに宛先を挿入するときに実行する SQL のバッチ・サイズを小さくすることにより、管理ゾーンのディスカバリ・ステータスがタイミグよく更新されない問題を修正しました。
QCCR1H96357	一部のトリガ CI がプローブにディスパッチされない問題を修正しました。
QCCR1H96529	新しいパッケージが作成されない問題を修正しました。
QCCR1H96934	Class B/C IPs by ICMP ジョブがエラー "java.lang.NumberFormatException: For input string.." により失敗する問題を修正しました。
QCCR1H96935	誤った Data Flow Probe にトリガがディスパッチされる問題を修正しました。
QCCR1H96936	Data Flow Probe で "ddm_gw_task_results_pkey index violation" により SQL エラー・メッセージが返される問題を修正しました。
QCCR1H96940	Service Manager から UCMDB に一部のリンクをポピュレートしようするとエラーが返される問題を修正しました。
QCCR1H96943	オブジェクトの削除中に、エージング・メカニズムでエラーが発生して失敗する問題を修正しました。
QCCR1H96947	階層内で選択されたタイプの親も含まれているために、Configuration Manager のポリシーに予想された結果が表示されない問題を修正しました。
QCCR1H96948	ログ・メッセージを書き込もうとしているときに、packageAndResourceUpgrader ステップでアップグレード手順が失敗する問題を修正しました。
QCCR1H96949	実際の利用可能なライセンス数よりも多いライセンスが使用されている場合の、ライセンス・カウントに関する問題を修正しました。また、どの CI がライセンスを使用しているか、およびライセンスの計算方法をユーザの組織で確認できるようになりました。
QCCR1H96950	インポートしたドメイン・スコープのドキュメントに JMX 経由でインポートした重複範囲が含まれている場合にエラーが発生し、デバッグ目的で利用できるログがないという問題を修正しました。この問題は、重複範囲についての詳細をログに追加し、ユーザが JMX 経由で UCMDB に重複範囲をインポートできるようにしたことで修正されました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H96951	UCMDB データベース・サーバとして機能する PostgreSQL で、データを AM にプッシュするとエラーが発生する問題を修正しました。
QCCR1H96952	Data Flow Probe ステータスを更新している最中にエラーが返される問題を修正しました。
QCCR1H97002	パッケージ・ルールにより登録されているソフトウェアを UCMDB で識別できない問題を修正しました。
QCCR1H97396	Windows Server 2012 上で実行されている Data Flow Probe で Viewer が機能せずエラーが返される問題を修正しました。
QCCR1H22344	レポートの日付フィールドおよびプロパティの「インスタンスを表示」するためのボックスが、ソート可能な形式になりました。
QCCR1H72687	Java API の getDiscoveryConfigurationXML() を実行したときに例外が返されなくなりました。
QCCR1H77771	Configuration Manager 10.00 でロシアのキリル文字が正しく表示されない問題を修正しました。
QCCR1H83085	属性値の変更によってトリガされたときに CIT アイコンが変化しない問題を修正しました。
QCCR1H84387	パッケージ・マネージャで非表示のクエリを編集するとエラーが発生する問題を修正しました。
QCCR1H84954	多数のジョブの進捗状況データを同時に取得するときの機能が向上しました。
QCCR1H85042	【カスタム レポート】タブで、ビュー変更レポートをメールで手動送信できない問題を修正しました。
QCCR1H85840	『ディザスタ・リカバリ・ガイド』が『バックアップとリカバリ・ガイド』に置き換えられました。
QCCR1H87897	トポロジ・レポートへのダイレクト・リンクがそのレポート自体から生成されている場合にリンクが機能しない問題を修正しました。
QCCR1H88104	コンテキスト・メニューの【関連 CI を取得】で、関連 CI がランダムに表示されなくなる問題を修正しました。
QCCR1H88628	【CI インスタンスを取得】パネルでフィルタを適用した後、選択したデータが変わらず、代わりに以前に選択したデータが表示される問題を修正しました。
QCCR1H88784	ログアウト・ページを変更できるオプション（【ログアウト時の転送先 URL】）が追加されました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H88839	修正されたダイレクト・リンク URL で発生する問題を修正しました。この問題は、ビューのコンテキストで関連 CI に対しクエリを実行すると発生していました。
QCCR1H88882	アプレット・ログがルート・ディレクトリの下に直接表示される問題を修正しました。
QCCR1H89025	findUnboundHistoryTables メソッドに関する問題を修正しました。
QCCR1H89032	Xen / KVM ジョブが、ゾーンベースのディスカバリのアクティビティ・ジョブ内のトリガ CI を実行できない問題を修正しました。
QCCR1H89412	トリガ CI の実際の数と [合計] フィールドに表示されるトリガ CI の数が一致しない問題を修正しました。
QCCR1H89486	エイジングのタイムアウトを 5 時間に延長しました。
QCCR1H89497	アダプタのパラメータ用の検証チェック機能を追加しました。
QCCR1H89500	Host Resources by WMI ジョブの結果で、ANSI 以外の文字（日本語、ロシア語など）が正しく表示されない問題を修正しました。
QCCR1H89785	cron 式の制限に関する説明（日付と曜日の両方を指定できない、これらのフィールドの一方または両方で「?」文字を使用する必要がある）を、モデリング・ガイドに追加しました。
QCCR1H89865	パターンベース・モデルに変更を加えると重複が発生する問題を修正しました。
QCCR1H90136	トポロジ・ビューに対して生成されたダイレクト・リンクが機能しない問題を修正しました。
QCCR1H90272	マップのレイアウトをモデリング・スタジオで指定できるようになりました。変更箇所は [ビュー トポロジを表示] ダイレクト・リンクで確認できます。
QCCR1H90289	追加の複合関係を既存のクエリに追加できない問題を修正しました。
QCCR1H90422	「名前別で CI ノード・タイプを取得できない」という内容のエラー・メッセージが表示される問題を修正しました。
QCCR1H90538	統合ポイント内の IP 範囲を編集するとエラー・メッセージが表示される問題を修正しました。
QCCR1H90706	Configuration Manager での変更箇所が自動的に表示されない問題を修正しました。
QCCR1H90857	ID 用の注釈が識別子用の注釈で上書きされる GDBA の問題を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H90906	認識されたアプリケーション・レポートを韓国語のインタフェースで作成するときに発生する問題を修正しました。
QCCR1H91667	VMware 仮想センター・レポートに不正な結果が表示される問題を修正しました。
QCCR1H91723	CI タイプを旧バージョンの UCMDDB にインポートすることはできません。
QCCR1H91811	DNS を 9.05 から 10.01 に変更した後に、10.01 用の新しい jar を取得できない問題を修正しました。
QCCR1H91922	UCMDDB 10.10 で saiPacker.cmd ファイルが欠落している問題を修正しました。
QCCR1H91974	検索時に Tags ビジネス・サービス属性のインスタンスを見つけるためには、JMX コンソールでインデクサの設定を変更する必要があります。 UCMDDB:Service=Topology Search Services.Method:editIndexerConfiguration の business_element クラスで Tags 属性を小文字にすることで、この属性が検索できるようになります。
QCCR1H92742	AM Push アダプタが、存在しなくなった以前の ID を使用して AM に関係を挿入するという問題を修正しました。
QCCR1H92858	フィルタを使用するときに属性値の候補が表示されない問題を修正しました。
QCCR1H92931	ITU_HIDDEN_CLASS 修飾子は、UCMDDB 10.10 では標準設定として表示されなくなりました。
QCCR1H93162	Internet Explorer 8 を使用している場合、UCMDDB Browser 3.2 に CI プロパティが表示されない問題を修正しました。
QCCR1H93263	ユーザごとのソフトウェア使用率の統計情報がスキャナで取り込まれた後、CMDB データベースに追加されない問題を修正しました。
QCCR1H93456	ターゲット・システムで DDMI エージェントを UD エージェントにアップグレードできない問題を修正しました。
QCCR1H93559	UCMDDB Browser での CI のハイパーリンクの動作が一貫していないという問題を修正しました。
QCCR1H93723	UCMDDB Browser 3.2 で一部のレポートを実行できない問題を修正しました。
QCCR1H93755	現在のページで検索結果のエクスポート機能が正しく動作しない問題を修正しました。
QCCR1H93991	UCMDDB サーバがプロキシの背後にある場合に、UCMDDB Browser へのリンクが正しく機能しない問題を修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H94053	ENUM 属性を持つパターンベース・モデルで、値が標準設定値に戻される問題を修正しました。
QCCR1H94055	UCMDB 9.05 に UCMDB Browser 3.21 をインストールすることはできません。回避策として、同じマシンにスタンドアロンの Browser をインストールできます。
QCCR1H94101	UCMDB API Web サービスの "updateProbeScope" を実行したときに発生する問題を修正しました。
QCCR1H94111	『管理ガイド』 > 「エンリッチメント機能の設定」に、次のような注意書きを追加しました。 注 :cmdb.search.enriching.depth パラメータの値を大きい値に変更すると、多数の検索結果が生成されるためにパフォーマンスが低下する可能性があります。
QCCR1H94163	リスト内の式の最大数が 1000 のときに [検出を再実行] ボタンをクリックすると、検出が再実行されない問題を修正しました。
QCCR1H94194	言語がドイツ語に設定されている場合、Configuration Manager に不完全な GUI 情報が表示される問題を修正しました。
QCCR1H94264	UCDMDB Browser 3.2 を開くとループが発生する問題を修正しました。
QCCR1H94488	UCMDB サーバがポート 443 を使用するよう設定されている場合に、UCMDB Browser に CIT アイコンが表示されない問題を修正しました。
QCCR1H94685	Host Applications by Shell ジョブが、1 つの IP のみに関連付けられているプロパティを持たないノード CI をレポートする問題を修正しました。
QCCR1H94799	レポートへのダイレクト・リンクを作成し、認証を使用せずにそのリンクを開けるようになりました。
QCCR1H94800	Excel にエクスポートしたときにタイムスタンプの形式が変更されなくなりました。
QCCR1H94816	不正な WrapperEnricherLicense.conf が原因で、GMT +9:30 タイムゾーンに設定されているプローブでは XML Enricher サービスが起動しない問題を修正しました。
QCCR1H95197	パッケージ・マネージャのリソース選択機能で、UI のポピュレートに時間がかかる問題を修正しました。
QCCR1H95266	GUI Jar のマニフェストにアプリケーション名を追加しました。
QCCR1H95324	同じ名前を持つ 2 つの属性がある場合に、CI タイプ・マネージャにデータが表示されるようになりました。
QCCR1H95502	パターン・ベース・モデルの出力ノードに変更を加えたときにエラーが発生しなくなりました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H95753	PostgreSQL を使用する UCMDB で CIT 属性のサイズを変更できるようになりました。
QCCR1H95851	IT ユニバースからの関係を 1 つしか削除できない問題を修正しました。
QCCR1H95854	「トリガを呼び出せない」という不適切なエラーが表示されないようになりました。
QCCR1H95883	ポリシーの文字列比較に空の値が含まれていると適切に処理されない問題を修正しました。
QCCR1H96052	ViewLayerCalculatorUtils クラスの compare 関数に null 値の条件を追加した結果、カスタム属性内の空の値が適切に処理されるようになりました。
QCCR1H96398	Added a check box on the 【スキャナ ジェネレータ】（手動デプロイメント・モード） > 【スキャナのオプション】 > 【その他】 に、Solaris および HP-UX で pfiles コマンドを有効化 / 無効化できるようにするためのチェックボックスを追加しました。
QCCR1H96544	データベース・テーブルのインデックスの断片化の監視に関する説明を追加しました。
QCCR1H96702	Import from Excel アダプタを使用して CI を作成すると、 【エイジングの有効化】 が true に設定される問題を修正しました。
QCCR1H96760	スキャナが「ディレクトリ・データの保存」中にクラッシュし、エラーが返される問題を修正しました。
QCCR1H96895	UCMDB 間のプッシュ・アダプタからエラー・メッセージが返される問題を修正しました。
QCCR1H96927	UCMDB サーバで Host Applications by Shell のディスカバリ結果を処理中に、NullPointer Exception によりエラーになる問題を修正しました。
QCCR1H96933	一部のスキャン・ファイルが、エラー「String index out of range: -1」により scans\Failed\error フォルダに移動される問題を修正しました。
QCCR1H97014	検出が部分的にしか完了していない場合に、すべての CI が検出済みであるかのようなメッセージが表示される問題を修正しました。
QCCR1H97087	プローブの範囲に含まれておらず、オペレーティング・システムを持たない不完全なノード CI に対し、UCMDB が誤って UD Full ライセンスを割り当てていた問題を修正しました。
QCCR1H87835	ImportMigrationDatafromDDMI MBean にあったタイプミス "infrastructrue" を "infrastructure" に修正しました。

CR グローバル ID	説明
QCCR1H90286	スケジュールされたレポートにドイツ語ロケールが適用されない問題を修正しました。
QCCR1H90503	ドキュメントが更新され、10.20 のインタラクティブ形式のデプロイメント・ガイドにアップグレードに関する説明が表示されるようになりました。
QCCR1H91547	クラスの表示ラベルで英語以外の文字が正しく表示されない問題を修正しました。
QCCR1H91657	次のような注意書きをドキュメントに追加することにより、問題を修正しました。UCMDB は標準 LDAP プロトコルを実装しているそれぞれの LDAP サーバと連動するよう設定できます。
QCCR1H91813	アプレット jar のダウンロードが失敗したときに、スタック・トレース用のログを利用できるようになりました。
QCCR1H92512	Linux で累積パッチをアンインストールするときに発生する問題を修正しました。
QCCR1H92616	UCMDB サーバが Linux 上で実行されている場合にコンテンツ・パックをアップロードできない問題を修正しました。
QCCR1H93919	CI のタイプ (Party, Person, Organization) ごとに対応する属性を使用できるようにステークホルダー・ウィジェット TQL を修正しました。
QCCR1H95159	UCMDB から切断されている 9.05 プローブを削除できない問題を修正しました。
QCCR1H95440	UCMDB に存在しなくなったユーザの通知設定が削除されました。
QCCR1H96937	Data Flow Probe および Universal Discovery で Windows Server 2012 がサポートされるようになりました。

ドキュメントに関するフィードバックの送信

このドキュメントに関するコメントについては、電子メールで[ドキュメント・チーム](#)までご連絡ください。ご使用のシステムに電子メール・クライアントが設定されている場合は、上記のリンクをクリックすると電子メールウィンドウが開き、以下の情報が件名の行に表示されます。

リリース・ノート (Universal CMDB 10.20) に関するフィードバック

電子メールにフィードバックを記入して、送信ボタンをクリックしてください。

使用できる電子メール・クライアントがない場合は、上記の情報を Web メール・クライアントの新しいメッセージにコピーして、フィードバックを cms-doc@hp.com に送信してください。

お客様からのご意見をお待ちしております。